環境創造センター

～ふくしまの環境回復･創造に向けて～

JAEA

ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

ごあいさつ

福島県環境創造センター所長
渡辺　良夫

福島県環境創造センターは、福島県の環境回復・創造に向けた総合的な取組を行う機関として、平成28年7月より活動を開始しました。

当センターでは、福島県民が安心して生活できる環境の実現及び福島県民の多様化するニーズに応えられる安全と安心が確保された社会の構築の2つの考え方のもと、福島県、日本原子力研究開発機構及び国立環境研究所が緊密に連携しながら、福島の環境回復・創造に向けた研究を進めております。

また、県民の皆さまが将来にわたり安心して暮らせる「ふくしま」にするために平成27年に策定しました環境創造センター中長期取組方針に基づき、「モニタリング」「調査研究」「情報収集・発信」「教育・研修・交流」の4つの取組を総合的に進めております。

福島県には、東京電力HD（株）福島第一原子力発電所の事故に伴い、環境回復、避難地域の復興、風評被害対策、事故の風化対策など、解決しなければいけない課題が山積しております。これらの課題に応えるために、県民の皆さまに寄り添った様々な活動を進めてまいりますので、皆様の御支援、御指導の程よろしくお願いいたします。

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
福島研究開発部門 福島研究開発拠点
廃炉環境国際共同研究センター長
岡本　孝司

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構(JAEA)は、原子力に関する総合的な研究開発を行う、日本における唯一の機関です。2011年の東日本大震災に伴う東京電力HD(株)福島第一原子力発電所事故の直後には、福島県内を中心とした放射線に関するモニタリングを実施し、空間線量率などの情報を公開しました。また、避難区域における除染モデル実証事業を推進して、本格的な除染のための基盤情報を整備しています。

JAEAは、福島県の皆様の安全を、より一層拡充するために様々な研究を進めています。例えば、除染が行われていない森林などからの放射性物質の移行挙動などを明らかにする研究や、将来を精度よく予測するための研究、環境中放射性物質の継続的なモニタリングなど、復興につながる研究開発を進めています。

研究開発の実施にあたっては、福島県環境創造センターを活動拠点の中核として、福島県及び国立環境研究所との3機関で緊密な連携・協力を行いつつ取り組んでいます。正確、かつ、わかりやすい研究成果を発信し、現場に適用することで、住民の皆様の安全安心の確保に貢献して参りたいと考えています。

国立研究開発法人国立環境研究所
福島支部長
木村　正伸

国立環境研究所は、東日本大震災の直後から被災地支援のための研究に取り組んできました。平成28年4月、国立環境研究所として初めての地方組織となる福島支部を、ここ環境創造センター内に設置しました。

ここでは、汚染された被災地の環境をできるだけ速やかに回復することを目的とした「環境回復研究プログラム」、環境配慮型の地域復興・まちづくりを支援する「環境創生研究プログラム」、さらにこれまでの災害における経験を将来の災害に備え生かしていくための「災害環境マネジメント研究プログラム」を展開しています。これらの研究プログラムは、茨城県つくば市にある国立環境研究所つくば本講とも密接に連携して行っています。

環境創造センターに入居する、福島県、日本原子力研究開発機構そして私ども国立環境研究所の三機関が、それぞれの機関の特徴、強みを生かして連携して取り組むことで、福島の環境回復、環境創造に一層貢献していけるものと考えています。引き続き、御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

福島県環境創造センターとは

福島県環境創造センターは、前例のない原子力災害からの「環境回復と創造」に向けた取組を行う総合的な拠点として、平成 28 年に福島県が設置しました。当センターは、「環境創造センター中長期取組方針」に基づき、環境放射能モニタリングや環境回復・創造に向けた調査研究の推進、モニタリングデータや調査研究成果の情報収集・発信、展示施設等を活用した放射線教育・環境教育などを実施しています。

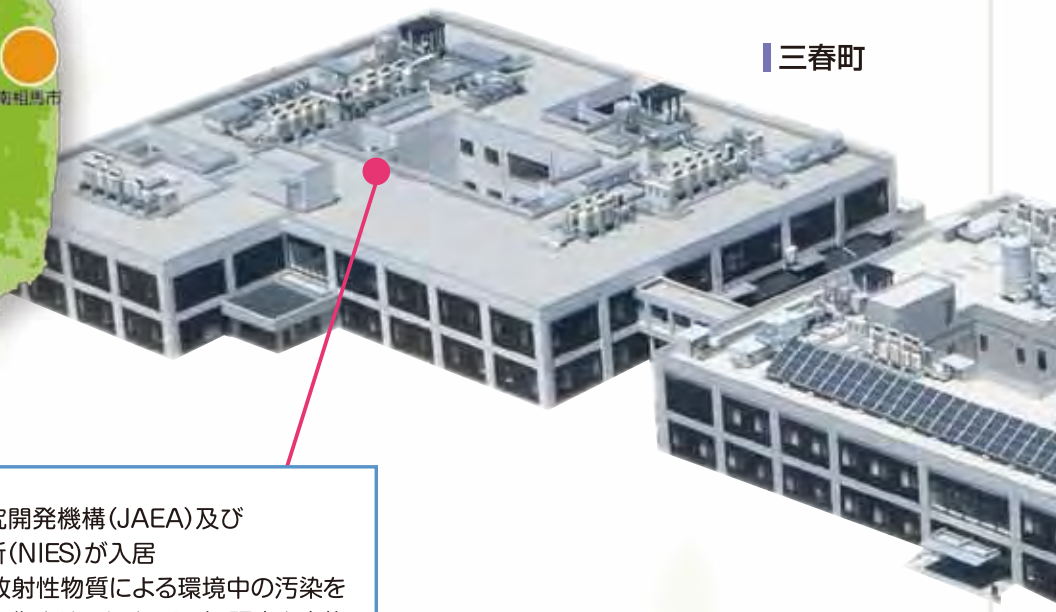
当センターでは、平成 27 年 4 月に締結した「環境創造センターにおける連携協力に関する基本協定」に基づき、福島県、日本原子力研究開発機構（JAEA）及び国立環境研究所（NIES）の3機関が連携協力し、福島の環境回復・創造に向けた調査研究等を行っています。地方公共団体と国の専門機関が一体となった国内では初めての取組として、県民の皆さまの視点に立って「放射線計測」「除染・廃棄物」「環境動態」「環境創造」の4つ分野で研究を進めています。

また、交流棟「コミュタン福島」では、展示施設や世界中で2台という貴重な体験のできる360度全球型シアターを備え、身近な視点から放射線や福島の環境への理解を深めていただくことができます。放射線に関する体験研修プログラムも備えており、子どもたちや様々な方々が、それぞれの立場から福島の未来を考え、創り、発信するきっかけとなる場を目指しています。

この他、原子力発電所周辺の環境放射能の常時監視を行う「環境放射線センター」、猪苗代湖における調査研究や環境活動の拠点となる「猪苗代水環境センター」、野生生物の放射能に関する調査や野生鳥獣の保護を担う「野生生物共生センター」を設置し、福島県の環境の回復・創造に向け、県民の皆さまに寄り添った活動を進めています。

環境創造センター施設概要

環境の回復・創造に向け、モニタリング、調査研究、情報収集・発信、教育・研修・交流を行う総合的な拠点として、福島県が設置した施設です。



三春町

●研究棟

・日本原子力研究開発機構（JAEA）及び国立環境研究所（NIES）が入居
・JAEAは、主に放射性物質による環境中の汚染を除去し、環境を回復させるための調査・研究を実施
・NIESは、主に環境回復や復興まちづくり、災害に強い社会づくりに関する調査・研究を実施

●環境放射線センター

南相馬市

・原子力発電所周辺のモニタリングや空間放射線の常時監視を行っています。
・JAEA 廃炉環境国際共同研究センター 環境モニタリングディビジョンが入居し、福島県と連携して業務を行っています。

無人ヘリによる放射線モニタリング

環境放射線監視テレメータシステム

●福島支所

福島市

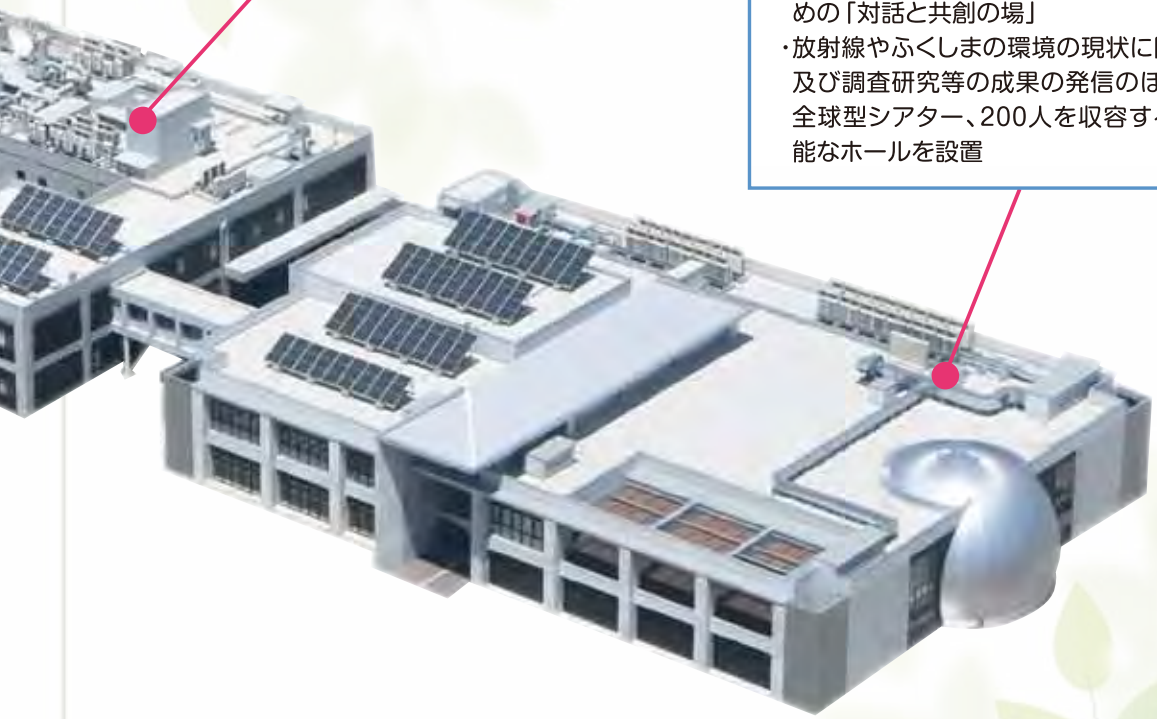
・環境試料中に極微量含まれるプルトニウムなどのα線放出核種、ストロンチウムなどのβ線放出核種の放射化学分析等を行っています。

●本館

・福島県が入居
・1階は環境放射能のモニタリングや調査研究を行うエリア
・2階は大気、水、廃棄物のモニタリングや調査研究を行うエリア

●交流棟(コミュタン福島)

・子どもたちが安心して輝く未来を創造するための「対話と共創の場」
・放射線やふくしまの環境の現状に関する展示及び調査研究等の成果の発信のほか、360度全球型シアター、200人を収容することが可能なホールを設置



●猪苗代水環境センター

猪苗代町

猪苗代湖・裏磐梯湖沼群に関する調査研究やボランティア活動の拠点としての機能を担います。

・猪苗代湖に関する資料や展示などを備えており、自由に見学・閲覧することができます。

●野生生物共生センター

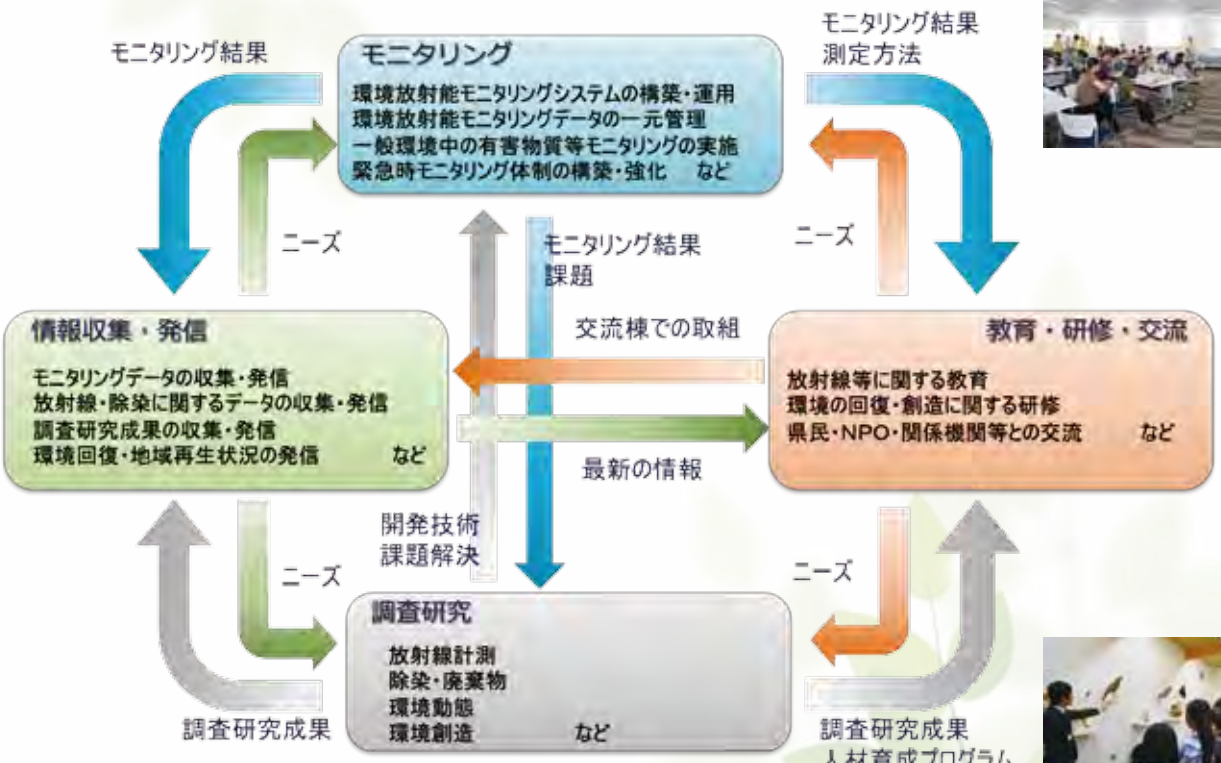
大玉村

野生生物のモニタリングや、野生生物の保護・救護の機能を担います。

・野生生物のはく製やパネル展示などを備えており、自由に見学・閲覧することができます。

環境創造センターの4つの取組

福島の環境の回復･創造に向け、「モニタリング」、「調査研究」、「情報収集･発信」、「教育･研修･交流」の4つの取組を総合的に行っています。



モニタリング

県内各地において、学校・公園等の定点測定、バス等を利用した走行サーベイ、モニタリングポスト等を用いた常時監視など、きめ細やかなモニタリングを実施しています。

また、「総合モニタリング計画」に基づき国、県、市町村等で実施されている環境放射能モニタリングの測定結果の集約、情報共有を行い、効率的に活用しています。

加えて、大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、廃棄物、化学物質に関する調査分析を行い、データの管理及び情報発信を行っています。

調査研究

前例のない原子力災害からの環境の回復・創造には、国内外の英知を結集して取組を進めていく必要があります。このため、県のみならず、研究棟に入居するJAEA、NIES及び県内外の研究機関や国際原子力機関(IAEA)とも連携協力しながら調査・研究を進めています。

3機関の連携

福島県、日本原子力研究開発機構及び国立環境研究所は緊密に連携し、環境の回復・創造のため、放射線計測、除染・廃棄物、環境動態、環境創造の4つの部門で調査研究を進めています。

平成27年4月24日
連携協力に関する基本協定締結

福島県とIAEAとの協力

平成24年12月15日、原子力に関する高度な知見を有するIAEAとの間で「放射線モニタリング及び除染の分野における協力覚書」を締結し、陸水域における放射性物質対策後の効果持続性把握の検討や野生動物における放射性核種の動態調査などの協力プロジェクトを進めています。

覚書

- 福島県とIAEAとの間の実施取決め（放射線モニタリング・除染）
- 福島県立医科大学とIAEAとの間の実施取決め（人の健康）
- 外務省とIAEAとの間の実施取決め（緊急時対応）

情報収集・発信

福島県の風評払拭
環境回復・地域再生・環境創造等の情報共有及び理解促進
国際的な研究ネットワークの構築

各種のモニタリング結果や調査研究成果について、県民の皆さまに分かりやすい情報発信体制の整備を進めています。

また、各種学会や国際会議等を通して、調査研究成果を国内外に積極的に発信していくとともに、本県の除染などによる環境回復・地域再生の状況について、一元的・網羅的な情報収集・発信に取り組んでいます。

さらに、交流棟「コミュタン福島」を活用し、各種イベントやワークショップ等を通じて、交流機会の拡大に取り組んでいます。

教育・研修・交流

福島県の環境の現状や放射線に関する情報を伝え、福島の未来を創造する力を育むため、放射線教育や環境教育、大学や他の研究機関等と連携した長期に渡る研究者等の人材育成、交流棟を活用したNPOや地域住民等を広く対象とした交流ネットワークの構築、環境回復・環境創造に関連する事業者への研修等に取り組んでいます。

交流棟「コミュタン福島」

コミュタン福島は、展示や体験学習を通じ、県民の皆さまの不安や疑問に答え、放射線や環境問題を身近な視点から理解し、環境の回復と創造への意識を深めていただくための施設です。

福島第一原子力発電所の模型

放射線見える化ウォール

環境創造シアター

会議室の貸出

コミュタン福島には、会議室やホールなどが備えられており、有料で利用することができます。
（使用目的等に応じて利用料が免除されます。）映像設備や音響設備も備えております。

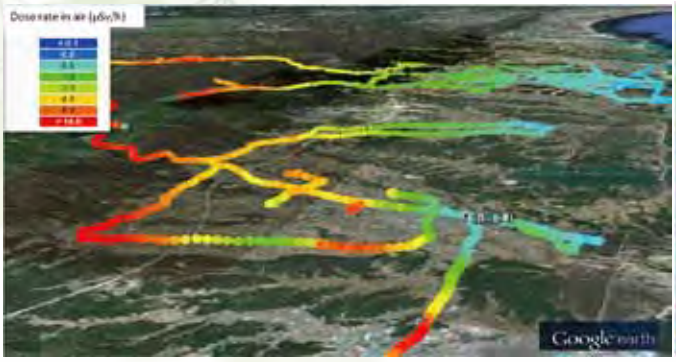
ホール（200名収容可能）

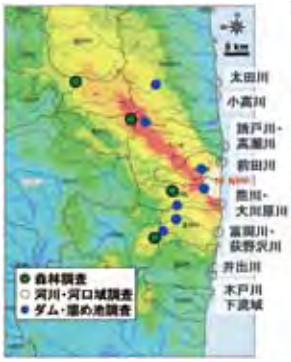
会議室（100名収容可能）

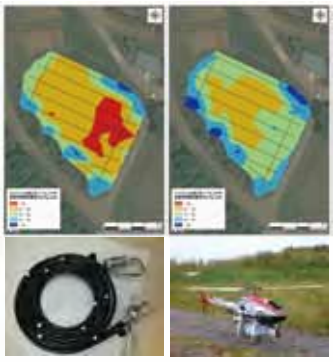
多目的会議室（約70名収容可能）

連携研究機関

日本原子力研究開発機構 廃炉環境国際共同研究センター







日本原子力研究開発機構（JAEA）は、我が国唯一の総合的な原子力研究開発機関です。福島第一原子力発電所の事故では、その直後から国の公共指定機関として、モニタリングや避難等の支援活動に取り組み、その後も“ふくしま”の環境回復と廃炉に必要な技術開発など、“ふくしま”の復興・再生に向けて積極的に研究開発・支援活動に取り組んでいます。

廃炉環境国際共同研究センターでは、“ふくしま”の環境回復に係る研究開発を行い、住民の方たちが安心して生活できるよう、様々なニーズに対応しています。

その取組として、事故直後から継続して行っている放射線モニタリング、空間線量率及び放射性物質の沈着量のマップの作成や将来予想などを進めてきています。

また、環境中の放射性物質が今後どうなるのかといったことに関する「環境動態研究」、無人ヘリなどを用いた広範な大地の効率的な測定や迅速に放射性物質の濃度を測定する放射線計測技術の開発、除染効果の把握及び除染廃棄物の減容・再利用の方策の支援に係る研究開発などを行っています。

これらに加え、県民の皆さんの健康管理調査（内部被ばく検査）、放射線に関するご質問への対応や原子力人材育成への協力・支援などにも積極的に取り組んでいます。

国立環境研究所 福島支部

国立環境研究所は、環境行政の科学的・技術的基盤を支え、幅広い環境研究に総合的に取り組む国内唯一の研究所として、1974年、茨城県つくば市に発足しました。以来、専門家集団としての高い使命感と幅広い知識を持って、地球温暖化や循環型社会、生態系の劣化、大気汚染などに関する幅広い環境研究を実施し、国内外の環境政策に貢献するとともに、環境問題を解決するための適切な情報の発信に努めてきました。

長年にわたり培ってきた環境研究の蓄積をもとに、東日本大震災の発生直後から国や地方自治体と連携・協働して、様々な被災地支援の災害環境研究を行ってきました。その取り組みは、がれき等の災害廃棄物や放射性物質に汚染された廃棄物の処理・処分、放射性物質の環境動態や生物・生態系影響、地震・津波による環境変化・影響、被災地の復興まちづくりと地域環境の創生など広範に及んでいます。

これらの取組を被災地に根ざして力強く継続的に進めるため、研究棟内に福島支部を開設しました。福島支部を拠点として、福島県やJAEAをはじめとする関連機関、様々な関係者と力を合わせて、被災地の環境回復と環境創生に向けた災害環境研究に取り組んでいます。また、福島県環境創造センターが進める環境情報の収集・発信や教育・研修・交流等の取組に、災害環境研究の面から支援・協力しています。これらを進めることによって、災害環境研究の世界的拠点となることを目指します。

研究プログラムの構造

環境回復研究（廃棄物管理システム）

環境回復研究（環境動態・影響評価）

環境創生研究

災害環境マネジメント研究

アクセス

○お車を御利用の場合
JR郡山駅より約30分
JR三春駅より約12分
磐越自動車道　船引三春ICより約5分

○東京から
東京駅（東北新幹線）ー郡山駅（磐越東線）ー三春駅　約1時間50分
東北自動車道　浦和JCTー磐越自動車道　船引三春IC　約2時間40分

○仙台から
仙台駅（東北新幹線）ー郡山駅（磐越東線）ー三春駅　約1時間10分
東北自動車道　仙台宮城ICー磐越自動車道　船引三春IC　約1時間30分

○三春町町営バスをご利用の場合
三春駅～環境創造センターまで年末年始を除き毎日（1日4便）運行 ◉コミュタン福島をご利用の方はバス料金無料

お問い合わせ　〒963-7700　福島県田村郡三春町深作10番2号（田村西部工業団地内）

ふくしまから はじめよう。
Future From Fukushima.

【本　館】福島県環境創造センター
TEL:0247-61-6111　FAX:0247-61-6119
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/298/
https://www.fukushima-kankyosozo.jp

JAEA

【研究棟】国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
福島研究開発部門 福島研究開発拠点
廃炉環境国際共同研究センター
TEL:0247-61-2910　FAX:0247-62-3650
https://www.jaea.go.jp/

【研究棟】国立研究開発法人国立環境研究所　福島支部
TEL:0247-61-6561　FAX:0247-61-6562
http://www.nies.go.jp/fukushima/

コミュタン福島 福島県環境創造センター 交流棟

【交流棟】コミュタン福島
TEL:0247-61-5721　FAX:0247-61-5727
https://com-fukushima.jp/

福島県環境創造センター新ロゴマーク
地球は環境を表し、創造や回復、連携を虹で表現している。
この虹の色は、赤・JAEA、黄・福島県、緑・NIESを表し、その先には"幸福が来る"との思いを込め、虹の先に三つ葉を配置している。
輝かしい未来になることを願い、2つの光を入れた。

2020.07